

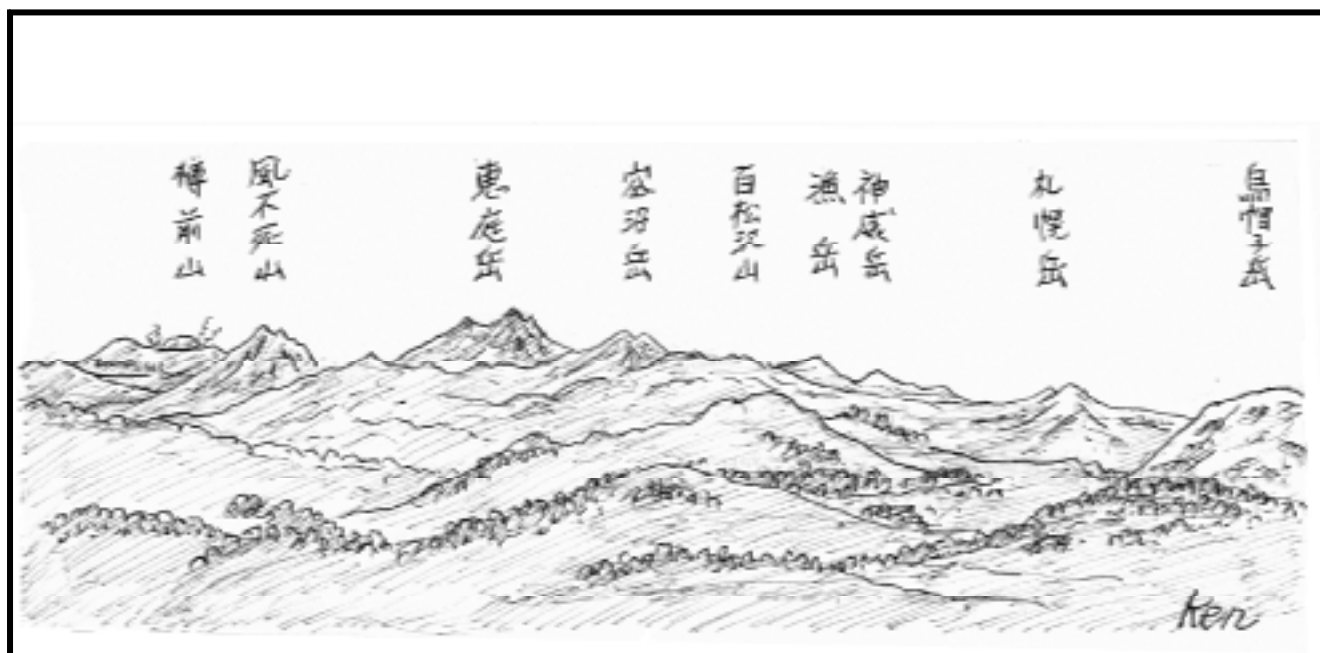


自然観察

No. 78
2006
3月

目次

・ 総会議案書案（概要）	2005年度事業報告及び収支決算	-----	2
・	2005年度決算中間報告	-----	4
・	2006年度事業計画及び収支予算（案）	-----	5
・	2006年度予算（案）	-----	6
・	北海道自然観察協議会会則改訂（案）	-----	7
・	2006年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い	-----	3
・	2006年総会・講演会・懇親会のお知らせ	-----	8
・ 雪の秘密をさぐる	第4回 土星のお月さん「ミマス」は雪の焼き物	-----	9
・ フィールドニュース	栗山町 苫小牧市	-----	10
・	札幌市北区 旭川市	-----	11
・ ウォッチングレポート	-----	-----	12
・ 参加者の声	-----	-----	14
・ 会計からのお願い	-----	-----	14
・ 理事会だより	-----	-----	15
・ ウォッチングプラン	-----	-----	15
・ 事務局だより	救急救命講習会報告	-----	16
	緊急連絡先他	-----	16



手稲山頂よりのパノラマ

総会議案書案(概要)

2005年度事業報告及び収支決算

[決算(中間)はp.4]

1. 観察会の実施状況

《一般観察会について》

2005年度の観察会は、開催予定55回(滝野の集いを除く)で、2/19日現在51回開催されました(雨天中止1回)。このうち報告書不備の7回を除く43回の参加者数です。

(括弧内は昨年同時期41回実施中40回の数字)

一般参加者 延べ 820人 (959人)

参加指導員数 延べ 239人 (259人)

一般参加者の年代別集計に関しては、未記載が150名と多く正確な集計は望めませんが、例年同様50代、60代が年代記載者671名中、422名と約63%をしめています。

今年度の最終集計は4月の総会及び会報にて報告します。

各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

《滝野の自然に親しむ集い(第16回)について》

場所 滝野自然学園とその周辺

実施日 2005年7月30日(土)～31日(日)

参加料 3,700円

一般参加者42名(14家族) 指導員17名、

学生ボランティア4名 合計63名

予定していた観察場所ががけ崩れで変更になるなどハプニングもあったが、その分下見を多くとって当日に備えた。学生ボランティアは札教大4名、指導員の元で楽しく参加していた。2日間予定通りできて、概ね初期のねらいを達成することができた。

2. 指導員研修について

<全道研修会>

実施できなかった

反省事項

会員の皆さんが一度は訪れてみたいというような“魅力的な”フィールドでの全道研修会は引き続き追及したいが、準備・お世話をいただく方の負担も大きく、今回は候補地を決定する事ができなかった。

研修の内容も検討する必要がある。

<地方研修会>

1)「身近な昆虫へのアプローチ 嫌われ者『カメムシ』を例に」研修会

8月21日(日)、小樽市なえぼ公園にて実施。18名の参加申し込みで15名が参加。小樽市博物館・山本亜生学芸員の講義で、「目」ごとの特徴を学んだ後フィールドに出て採集・標本化の実習を行い、双眼実体顕微鏡を使っ

同定・観察を行った。カメムシを中心とする昆虫の面白い形態、生態が学べて興味深かった。

2) フォローアップ研修会

9月10・11日(土、日)に恵庭市で計画したが中止した。

反省事項など

1) フォローアップ研修会の参加希望者は、当初ある程度いたのだが、最終的には1名となった。希望と実際の申し込みの差を埋める事を考える必要がある。

2) 会員が普段手がけている小さなテーマや狭いフィールドに絞った研修も手軽に実施したい。(できれば予算的な裏づけもしたい)

3. 会報発行について

会報75号(6/15)、会報76号(9/1)

会報77号(11/15)、会報78号('06/3/15)

予定通り発行できた。

4. 組織の状況

3月末現在で会員数が約400名です。

5. 理事会・部会・その他

* 総会 4月16日(土) 13:00～14:20

札幌市環境プラザ研修室1号・2号室

* 講演会 14:20～16:00

札幌市環境プラザ研修室

演題-「昆虫はどのようにして冬を越すか」

講師-片桐 千仞(北海道大学低温科学研究所生化学部助手)

一般参加者48名 会員28名 計76名

* 理事会・各部会

理事会 4/16、6/20、8/10、10/19、'06 1/24、'06 2/24

観察部会 9/2 '06 2/10

研修部会

編集部会 5/27、6/9、8/11、8/26、9/2、10/18、11/4、11/11、'06 2/21、3/3、3/10

理事選考委員会 '06 2/28、3/7

* 事務局動向

環境道民会議セミナー出席 4/22 6/2 8/25
12/16

高山盗掘防止委員会 11/19 '06 2/25

中央環境審議会地方ヒヤリング '06 3/7

* 忘年会 11月26日(土) 居酒屋「笑笑」
* 救急救命講習会 '06年1月29日
札幌市かでの2.7
講師:札幌市中央消防署・日本赤十字札幌支社

* 北海道自然観察協議会の広報
『プロジェクト20』実践活動広報チーム
市民活動フォーラム・パネル展 10/2
かでの2・7

* 観察会の広報について
日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、赤旗、地元新聞、ティガール、ウオッチングガイド、環境パレット等

北海道環境生活部環境室環境政策課、
札幌市環境局環境都市推進部推進課、
北海道自然保護協会

6. 他機関との連帯、交流

・講師派遣

札幌市厚別中央地区福祉協議会

「森へ行こうよ」 6/21

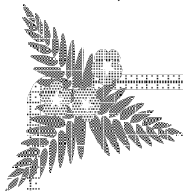
こむすて土曜クラブ 6/11、7/9、10/22、'6 2/18

・共催

「千歳市ママチ川 - 川で楽しく遊ぼう親子こども特集」 7/2

「北帰行のヒシクイ観察とゴミ拾い」 3/26
千歳市環境課共催

・環境道民会議「WARM BIZ」賛同



2006年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い

観 察 部

2005年度は京都議定書の発効、外来生物法の施行など自然環境面で新たな展開があった年でした。自然に親しみ、自然を知り、自然を守る。私たちの観察会の意義を再認識させられる年でもあったのではないのでしょうか。そんな2005年度の観察会スケジュールも皆様のご活躍とご協力で、無事終えることができそうです。ありがとうございました。

さて2006年度の観察会は、2月末集計の段階で48回余(滝野の集いを除く)を予定しています。観察会開催にあたっては、地域にとらわれず、多くの指導員の参加を募っています。

お手数ですが観察会参加予定を、同封のアンケートはがきに記入のうえ、**3月31日**までにご返送ください。

アンケートはがきには研修会や救急救命講習会なども載せています。ご確認の上併せてご記入下さい。

アンケートはあくまでも参加予定の確認ですので、当日の参加・不参加を拘束するものではありません。

都合で参加できなくなった場合は、事前に必ず連絡先指導員に、ご一報ください。

記入の際は、別紙「2006年度自然観察会の予定(指導員用)」を参照してください。

アンケートの集計結果は、各観察会の連絡先指導員に直接お知らせします。また会報79号に同封します。

なお観察会参加にあたっては、次の点に留意してください。

下見会は、観察会本番の準備というだけでなく、指導員同士の親睦を図り、また自己研鑽の場としての意味合いもあると思いますので、できるだけ参加されることをお勧めします。

観察会当日は不参加でも下見会に参加される方は、事前に連絡先指導員に連絡の上奮ってご参加ください。

あらたに2006年度中に観察会を開催予定の方は、観察部山形誠一までご連絡ください。

2005年度決算中間報告(2月20日現在)

収入の部

単位(円)

項目	予算額	2月20日現在	増(+)/減(-)	摘要
前年度繰越金	1,166,027	1,166,027		
会費	500,000	571,000		会員440名
研修(補助)	30,000	30,000		北海道自然保護協会より
雑収入	0	100,033		寄付金(富士ゼロックより合計10万円)
観察会参加料	100,000	87,621		観察会保険料・資料代
合計	1,796,027	1,954,681		

支出の部

単位(円)

項目	予算額	2月20日現在	増(+)/減(-)	摘要
事務費				
通信費	50,000	41,890		切手、ハガキ、電話代、送金手数料
消耗品費	30,000	11,829		プリンターインク、用紙、コピー代など
会議費	15,000	10,950		理事会、部会、救急救命講習会
小計	95,000	64,669		
会報費				
会報郵送費	200,000	129,700		年間4号分(加ネメール便)75、76、77号(78号は3月発行)
印刷代	150,000	92,670		年間4号分 75、76、77号(78号は3月発行)
ラベル代	4,000	4,200		
封筒印刷代	36,000	12,705		
原稿謝礼代	0	0		
通信費	10,000	12,470		編集部関係
消耗品費	10,000	248		ゼロテープ、プリンターインク、用紙など
会場費	0	1,000		
小計	410,000	252,993		
活動費				
観察会費	100,000	47,982		観察会実費(保険料、靴・材料代、郵送料・払込手数料等)
総会開催費	16,000	13,220		講師謝礼、会場借用料
30周年積立	30,000	30,000		
全道研修費	50,000	0		全道研修会無し
地方研修費	50,000	22,850		補助(身近な昆虫へのアプローチ)
旅費補助	0	0		指導員養成講習会2005年度は無し
備品費	30,000	0		
雑費	10,000	0		「日本の森と自然を守る全国連絡会」会費など
小計	286,000	114,052		
予備費	1,005,027	0		
総計	1,796,027	431,714		

2月20日現在収支残高

総収入 1,954,681円 - 総支出 431,714円 = 1,522,967円(2月20日現在の残高)

30周年特別会計

2004年度繰越金 30,000円
 2005年度積立金 30,000円
 60,000円

観察会参加料中間報告(2月20日現在)

収入		支出	
繰越	0	保険料(900名)	32,400
観察会参加料金47回	87,500	資料・コピー代	8,682
雑収入	121	振込手数料(19件)	1,310
		通信費	3,060
		講師謝礼	0
		材料代	0
		交通費	2,120
		雑費	410
収入合計	87,621	支出合計	47,982

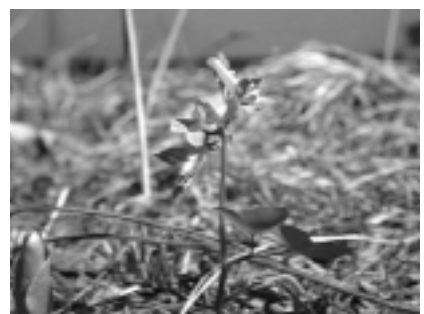
収支残高 39,639円



キクザキイチゲ 札幌 M.T



フクジュソウ 端野 M.T



エソエンゴサク 端野 M.T

2006年度事業計画及び収支予算(案)

[予算(案)はp.6]

1. 観察会の開催について

1) 今年度の観察会実施計画は別表「2006年度自然観察会の予定(指導員用)」の通りです。(観察会日程のほか下見会、研修会などの情報も掲載しました)

今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。

・今年度より一般参加者名簿および指導員名簿の記載内容が変わります。新しい名簿用紙が変わりますので、各観察会連絡担当者の方は必要枚数を観察部山形までご連絡ください。

2) 観察会の報告書は観察部山形(札幌市中央区 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp)へ、保険料など現金は観察部会計引地(札幌市北区)へ送付ください。

・振り込みを利用する方は、会計引地へ申し出て下さい。印字済み振込用紙をお渡しします。振込の場合は、振込用紙に記載されている内容を必ず記入して下さい。

口座番号：2770-9-34461 (通常払込加入者負担の用紙)

加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

・手渡しの場合は、会計報告書に記入し現金と一緒にお願いします。

3) 観察会の予定及び実施状況は、会報でお知らせします。

4) 各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。

5) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。

6) 団体などから当会へ「観察会へ指導員派遣」の要請があれば、事務局が窓口となり対応します。

7) 「第17回 滝野の自然に親しむ集い」は、滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各1名選出)で組織して実施予定です。

< 観察会事故緊急連絡 >

事務局へ連絡をお願いします。

Tel/Fax 011-752-7217

日曜・祝祭日 (株)北海道保険---休日

【保険】

保険会社：北海道保険保証(Tel 011-222-0877)

死亡保険：500万円

入院保険金額：5,000円(180日以内)日額

通院保険金額：2,500円(90日以内)日額

8) 共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿とひとりあたり50円の保険料を協議会へ送って下さい。ただし、一泊二日以上は該当しません。

2. 指導員研修について

< 全道研修会 >

石狩浜「NACS-J 海岸植物群落調査」研修会 (NACS-Jとの共催)

6月24日(土)13:00~25日(日)12:00

石狩浜を会場に、海岸植物群落の特徴・保護活動を学び、NACS-Jが全国で実施している海岸植物群落の調査方法について実習する。

< 地方研修会 >

1) キノコ研修会

「キノコという生物をもっとよく知ろう」(仮題)

10月1日(日)9:00~12:00

錦大沼総合公園 オートリゾートキャンプ場

2) フォローアップ研修会

「はじめの一步を一緒に」

11月19日(日)9:00~16:00

恵庭市 青少年研修センター

3. 会報発行について

会報79号 6月15日、会報80号 9月1日

会報81号 11月15日、会報82号 '07年3月15日

事務局ほか各部などの最終締め切りは発行日の25日前とします。

同封書類については事前に打ち合わせの上、当日、発送作業の場へ持参して、作業の手伝いをお願いいたします。

4. その他

・各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制を作りたい。

・理事会で慎重に検討を重ねながら協議会ホームページの立ち上げを図りたい。

・'07年1月28日、責任ある観察指導員としての確かな判断と対応が取れるように救急救命講習会を実施します。

・個人情報保護の観点から、会員名簿は外部に流出しないようにして下さい。

・個人情報保護法について

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報、観察会活動の目的以外には利用いたしません。

保有する個人データは適正に取り扱い、第三者には提供することはありません。

【備品・蔵書・分野別ガイド】

観察会用備品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んでください。

備品	数量	保管先
実体顕微鏡ニコンファールニ	2台	根岸 徹 厚別区 Tel 011-891-0556
タモ網	25本	
クリップボード(A4サイズ)	20個	佐々木充人 北区 Tel 011-726-6184
クリップボード(B5サイズ)	20個	
ネームホルダー(安全ピン式)	100個	須田 節 東区 Tel 011-752-7217
大型旗(120×180)	1枚	
小型旗(35×43)	3枚	
ボール(折りたたみ式)	3本	

クリップボードは観察会開催指導員へ配布する。

- 北海道自然観察協議会蔵書
 献本された本を預かっておりますので、読みたい方はご一報ください。保管：事務局
- リスト(書籍名・発行所・発行者 主たる編集者・監修の順)
- ・「自然観察」創刊号～78号(コピー含む)北海道自然観察協議会
 - ・「自然観察ガイドブック-円山を例として-」北海道自然観察協議会10周年記念29冊
 - ・「十勝野の花たち(平成13年)」小野寺 実
 - ・「里山の環境学(2001年)」東京大学出版会 武内和彦・鷺谷いづみ・恒川篤史
 - ・「雑草博士入門(2001年)」全国農村教育協会 岩瀬徹・川名興 著
 - ・「ご近所自然観察(2002年)」コープながのいんぷり連絡会 渡辺隆一
 - ・「01北海道環境白書(平成13年)」北海道環境生活部環境室環境政策課
 - ・「全労済助成事業活動報告書1998年・1999年(2002年)」全国労働者共催生活協同組合連合会
 - ・「自然保護NGO半世紀のあゆみ(日本自然保護協会50年誌)(2002年)」平凡社 財団法人日本自然保護協会

- ・「自然を守るあの手この手(2002年)」財団法人日本自然保護協会
- ・プロ・ナトゥラ・ファンド 第13期助成成果報告書(2004年)財団法人日本自然保護協会
- ・「みんなで止めた日高横断道路」止めよう日高横断道路全国連絡会(2004年)
- ・「地球環境」地球の炭素循環と一次生産 社団法人 国際環境研究会2004

2006年度予算案

収入の部

単位(円)

項	目	2月20日現在	予算額	増(+)/減(-)	摘	要
前年度繰越金		1,166,027	1,522,967		2月20日現在	
会費		571,000	540,000		会員400名、新指導員入会40名として	
研修(補助)		30,000	0		北海道自然保護協会より	
雑収入		100,033	0		寄付・助成金など	
観察会参加料		87,621	90,000		観察会保険料・資料代	
合	計	1,954,681	2,152,967			

支出の部

単位(円)

項	目	2月20日現在	予算額	増(+)/減(-)	摘	要
事務費	通信費	41,890	60,000			
	消耗品費	11,829	30,000			プリンターインク、用紙、コピー代など
	会議費	10,950	15,000			理事会、部会
小計	64,669	105,000				
会報費	会報郵送費	129,700	200,000			年間4号分(加社メール便)
	印刷代	92,670	150,000			年間4号分(1冊約70円)
	ラベル代	4,200	4,000			
	封筒印刷代	12,705	36,000			2000通印刷予定
	原稿謝礼代	0	0			
	通信費	12,470	15,000			編集部関係
	消耗品費	248	10,000			セロテープ、プリンターインク、用紙など
会場費	1,000	0				
小計	252,993	415,000				
活動費	観察会費	47,982	90,000			観察会実費(保険料、北の材料代、郵送料・払込手数料等)
	総会開催費	13,220	16,000			講師謝礼、会場借用料
	30周年積立	30,000	30,000			
	全道研修費	0	50,000			補助
	地方研修費	22,850	50,000			補助(25,000円×2回)
	旅費補助	0	23,000			指導員養成講習会へ(2004年度15,000円+手伝い延べ6人)
	救急救命講習会費	-	8,000			事務費から活動費へ項目設ける
	用具費	0	30,000			備品費を項目変更
雑費	0	10,000			「日本の森と自然を守る全国連絡会」会費など	
小計	114,052	307,000				
予備費		0	1,325,967			
総	計	431,714	2,152,967			

2005年度収支残高

総収入 2,152,967円 - 総支出 2,152,967円 = 0円

30周年特別会計	2005年度繰越金	60,000円
	2006年度積立金	30,000円
		90,000円

北海道自然観察協議会会則改訂(案)

第 1 条 名称及び事務所

この会は北海道自然観察協議会と称し、事務所を事務局長宅におく。

第 2 条 目的

自然をとうとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。

第 3 条 事業

この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 自然観察会等の育成指導。
2. 会員の資質の向上を図るための研修会等の開催。
3. 会員の親睦と団結を図り、地域の自然保護思想を啓発するための大会を開催する。
4. 会員相互の連絡と情報交換、研究資料等の発表のための会報を発行する。
5. その他、この会の目的達成のための事業並びに事業協力。

第 4 条 会員

この会の会員は(財)日本自然保護協会が認定した自然観察指導員をもって構成する。

第 5 条 役員

この会に、次の役員をおき、それぞれの職務を担当する。

1. 会長 1名 会を代表する。
2. 副会長 若干名 会長を補佐し、会長事故ある時は会長職務を代理する。
3. 事務局長 1名 会の事務一般を総括する。また、事務局員若干名を指名する。
4. 理事 30名以内 会の運営について審議する。
5. 監事 2名 会の運営及び会計を監査する。
6. 役員の任期は2年とする。再任は妨げない。

第 6 条 役員選出

役員(理事、監事)は総会において選出し、会長・副会長・事務局長は理事の互選とする。

第 7 条 会議

1. この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。会議の議長は理事の互選とする。
2. 総会は、毎年1回開催し、会の運営及び事業の執行等全般について決定する。
3. 理事会は必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

第 8 条 会計

1. この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入による。
2. この会の会費は、年額1,500円とする。
3. 会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

第 9 条 付則

この会の会則は、1984年(昭和59年)8月26日から施行する。

一部改正 1991年8月11日 1994年5月21日 2000年4月15日
2006年4月 日

2006年 総会・講演会・懇親会のお知らせ

総会は連絡協議会の運営方針などへのご意見やご要望を会員の皆さまから直接いただき、審議のうえお諮りする場です。会員の皆様におかれましてはご多忙の时节とは存じますが、是非ご出席下さいませようご案内申し上げます。

日 時： 2006年4月15日（土） 受付12時30分より
場 所： 札幌市エルプラザ2階 環境プラザ研修室 1・2号 TEL 011-728-2112
JR札幌駅北口12番出口から地下歩道で直結。

《 総 会 》 午後1時～午後2時20分
議事概要： 1) 2005年度事業報告 2) 2005年度決算報告・監査報告
3) 2006年度事業計画案 4) 2006年度予算案
5) 会則改正案 6) その他 7) 2006～2007年度理事紹介

《 講演会 》 午後2時30分～午後4時
演 題： 「森林性植物の季節性と繁殖特性」
講 師： 工藤^{がく} 岳 先生 北海道大学大学院地球環境科学研究院助教授
講演概要：

落葉広葉樹林の光環境は、春から夏にかけて大きく変化します。雪解け直後は林内まで十分な光が差し込んできますが、初夏の林冠木の開葉とともに光の量は急速に減少し、秋の落葉時期まで暗い状態が続きます。林床に生育する植物は、様々な開花スケジュールを持っており、それぞれの種が異なる光環境の中で繁殖活動（開花と結実）をしています。

植物の繁殖には、光合成活動のための光資源と受粉のための訪花昆虫の活性が大きく関係します。そして、光や受粉に対する反応は、種によって様々です。これまで、北海道の森で観察してきた調査結果をもとに、森林性植物の繁殖特性についてお話しします。

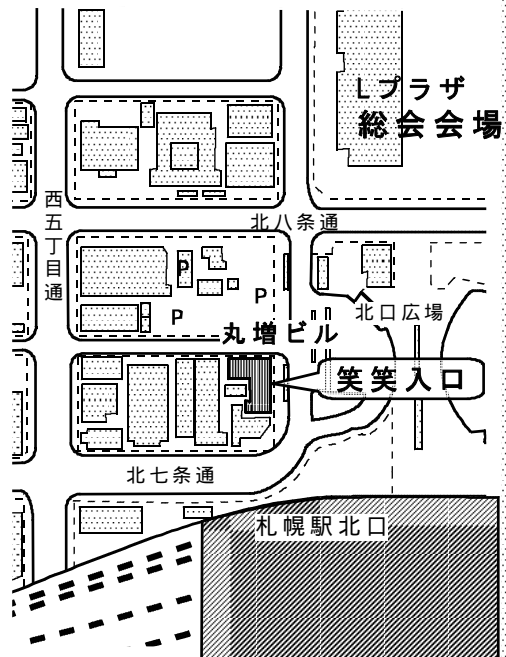
講師プロフィール：

1962年東京生まれ。
1991年北海道大学大学院環境科学研究科博士課程修了。
日本学術振興会特別研究員、科学技術特別研究員、
北海道大学大学院地球環境科学研究科を経て、
現在、北海道大学大学院地球環境科学研究院助教授。

主な著書：

「大雪山のお花畑が語ること?高山植物と
雪渓の生態学」京都大学学術出版会（2000年）
「高山植物の自然史?お花畑の生態学」
北海道大学図書刊行会（2000年）

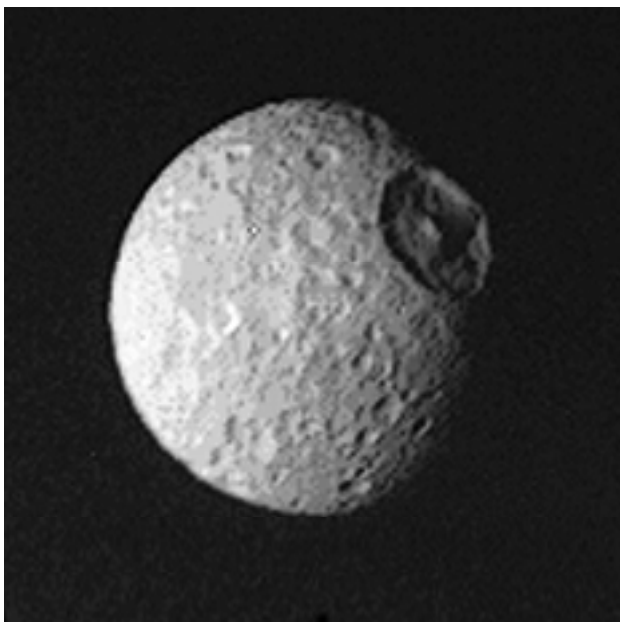
《 懇親会 》 午後5時～午後7時
場 所： 居酒屋 笑笑(わらわら) TEL011-717-2088
札幌市北区北7条西4丸増ビル地下1階
会 費： 男3,000円 女2,700円（飲み放題）
会費当日受けます。
講演会講師の工藤先生がご出席の予定です。



- ▽ 総会当日に2006年度観察会予定表をお渡します。各地域で使用する枚数を
観察部 山形 誠一 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jpへご連絡下さい。
- ▽ 総会・講演会・懇親会出席の有無を 事務局 須田節へ4月10日までにお知らせ下さい。
〒007-084 札幌市東区北40条9-1-13
TEL・FAX 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.ne.jp

「雪の秘密をさぐる」連載も今回が最後です。これまでは地球上の雪の話をしてきましたが、今回は視野を少し広げ、地球以外の雪の秘密をさぐることにします。といっても、雪は広大な宇宙においても普遍的な存在ですから、話題は数え切れないほど沢山あります。ここでは土星に着目することにしましょう。ただし、土星といえば、あの巨大な輪がたいへん特徴的で、それが大小の氷や雪の塊からなることも魅力的なトピックですが、それについては別に書きましたので（前野：『新版 氷の科学』北大出版会）、ここでは土星の雪のお月さんについて書くことにします。

地球にはお月さんは一つしかありませんが、土星の周りにはたくさんのお月さんが回っています。その数は宇宙探査技術の進歩とともに毎年のように増えており、現時点で47個のお月さんが発見されています。お月さんといっても、大きいのは直径5,000キロメートルのものから、小さいのは5キロメートルにも満たない可愛らしいものまでいろいろです。



土星のお月さんミマス（NASA提供）

その中で、ミマスというお月さんはもっとも魅力的で神秘的です。ここに示した写真は、アメリカの宇宙探査機ボイジャー1号が土星の近くまで行って撮影したのですが、その素顔は驚くべきものです。ミマスの直径は394キロメートルで、ちょうど北海道を丸くしたような小さな天体です。しかし、その表面は無数のクレーターで覆われており、その中に一際目立つ巨大なクレーターが輝いています。この巨大クレーターにはミマスの発見者ハーシェルの名前が付けられています。このハーシェル・クレーターの大きさは、直径130キロメートルもあり、ミマス自身のおよそ3分の1にも達します。ミマスの反対側を撮影した写真には、このクレーターの形成時に衝撃波が達して生じたと思われる破壊の跡も認められています。

この写真がアメリカ航空宇宙局（NASA）から発表されたころ、私たちはいろいろな疑問を抱きました。その一つは、こんな巨大なクレーターを生じる衝突事件が起きたとき、ミマス自身が壊れなかったのはなぜだろう、という疑問です。当時私たちは雪の圧縮や焼結の研究を進めていましたから、ミマスが壊れなかったのは、雪のような空隙を持った柔らかい構造になっているためであろうと予想しました。ミマスの比重は1.2ですから、非常に空隙の多い構造を持った氷天体に違いないと考えられていたからです。しかし、内部構造に関してそれ以上の情報はありませんでした。

これを調べるために、私たちは、氷と岩石の混合物の力学強度と熱伝導度の測定を行い、その結果と焼結理論を用いてミマスの内部構造の変化を46億年に渡って数値計算することにしました。近年の惑星形成理論によりますと、惑星や衛星は多数の微粒子や微惑星が衝突合体して出来たものであり、ミマスのような氷衛星も氷微惑星の集積と考えられたからです。

この連載を読まれた方には既にお分かり

のように、このシミュレーションはミマス
を雪の焼き物と考えることと等価です。つ
まり、焼結によって粘土粒子の間に結合が
成長し、焼き物が生まれると同じように、
ミマスの内部では、氷微惑星同士が焼結に
よって合体し、構造が変化してゆくという
わけです。地球のような大きな天体の場合
は、内部の放射性物質の壊変で発生する熱
が天体全体を融解し、重力による物質の再
分布が起こりますが、ミマスのような小天
体の場合は、全体の融解には至りません。

私たちの計算によると、現在のミマスの
中心部は46億年という長期間の焼結によ
って固い氷と岩石のコアに変化していますが、

表面の約50 キロメートルの層はまだ空隙
の多い構造となっています。この層の空隙
率は約40%と見積もられますから、冬の北
国の路上の雪のような構造と考えられます。
このような構造であれば、氷微惑星が高速
衝突しても、衝突のエネルギーは十分に吸
収され、氷天体そのものが破壊することは
ないわけです。本当にこのような構造にな
っているかどうかを見極めるためには、ミ
マスに行って実際にボーリング調査をし
てみなければなりません。近い将来ロボッ
トか人間がミマスまで出掛けてゆける日
が来ることを期待しましょう。

フィールドニュース

Field News

高山ではなし

栗山町 森本 夏彦

私のかってな解釈なのですが、毎年同じ時期に
同じ山に登っていると、なにかしら前年とは異な
った部分を見つけ自分の理論を吹聴しているの
です。それは高山植物のウラジロナナカマドの
ことなのですが、毎年同じように赤い実をつけ
ているはずなのに、まったく実がつかない年が
あるのです。

人に言えば「そんなの天気が悪ければ実もつ
けないさ」と言われそうですが、そうでもなさそ
うなことも。数年前にも夏の初めころから暖か
く植物にとっては絶好の年を迎えたと思われた
はずなのに秋にはあるはずのあの赤い実がま
ったく無い木が非常に多く、鳥カリスが食べたの
だろうと思ったりもしたのですが、あまりにもき
れいさっぱり見あたらない。

そうかと思えば、冷夏の年は山の木の実も少な
いだろうと思いきや、なんと実がびっしり。そこ
ではたと私は考えた。厳しい山の上、夏も短く栄
養も少ない。木だって一年になんでもかんでも
やろうたって出きるものじゃない。それにチャ
ンスがあれば少しは枝葉も延ばしたいし。

そこで自論。暖かく養分の多い年は、きっと枝
葉を延ばすのに力を注ぎ、冷夏などの年は、親が
だめになっても子孫を残そうと実を付けるのだ
と。今年とは言えば、赤やオレンジの紅葉がま
ぶしく、なかなか木も元気なようで。しかし、や
っぱり実は少なめの木が多かったような気がし
たのです。

大雪山の高山地帯で見れば、全体的に植物の
自然観察 78号 (10)

実は少なかったようです。しかし、今年も出合っ
た熊は人を食べようともせず、悠々とクロウズゴ
などむさぼっているところを見ると、そこはまだ
まだ自然の宝庫なのだといつもながらうれし
くなりました。

この自然も人の手を入れないと壊れかけてい
るような気がします。色々自分も含めて考えな
ければならないことがあるけど。せめて山小屋
やキャンプ指定地にトイレはなければなら
ないように思います。

観察会の嬉しさ

苫小牧市 渡部 悦子

私は、苫小牧錦大沼公園という所で、仲間4人
と観察会を開いております。4人それぞれの持ち
味(植物、樹木、キノコ、鳥)を生かして、年4
回程活動しております。

この公園には、大沼小沼そして、小さな小
さなおぼろ沼という沼があり、このおぼろ沼のま
わりには、数種のランがあります。特にヒメミズ
トボが数株あって、毎年咲きように、今年
は去年はと比べ、心おどらせております。でも
キレイなせいか、手折られてしまいます。ど
こかの窓辺に飾られている事でしょう。

観察会に参加して下さる方々は、遠くから
の方、近くの方それぞれです。時々参加して
下さる方には、また来て頂いたという嬉し
さ、初めての方には、新しくこの場所を知
って下さったという嬉しさ、私の思いも
それぞれで、本当に嬉しい限りです。皆
様の歩調にあわせ、ゆっくりゆっくりめ
ぐりますが、とても喜んでお待ちしております。

おぼう沼を出て、芝生広場につくと、雄大な樽前山がみえます。そこから木道を通って、小沼をめぐる間に、キビタキ、オオルリ、カワセミなどに会える事があります。

この公園は一日いても飽きる事はありません。時間がありましたら、皆様どうぞ一度いらしてみてください。

ゆっくり歩こう

札幌市北区 佐々木 充人

私は日頃自然観察を行う際にモットーとしていることがあります。それは、興味を抱いた観察対象に対しては自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の手で触り、自分の鼻で匂いを嗅いで確かめ、出来る限りその場で種の同定を行うというものです。

これは非常に時間のかかる作業で、なかなか前に進めません。その上、興味の対象が高山植物から野草全般へ、さらに樹木やシダ、地衣蘚苔類、そしてとうとう鳥や蝶をはじめとする昆虫の一部にまで及ぼうかとする今日この頃。今一番の悩みは図鑑の重さです。こう書いてくると何が楽しくて自然観察なんてやってるのという疑問を呈される方もいらっしゃるでしょうが、これが楽しいんです。

冬の間ずっと気になっていた樹木、冬芽を見てもまだ判らない。春になり葉が展開し或いは花が咲いてようやくそれが何という木であったのか判る。種名が判ると同時に、冬芽、樹皮、芽吹き、葉が展開する様子、花と、それぞれの？がひとつにリンクし、生活史の一部が見え始める。こうなるともうしめたもの。一年間、季節折々の姿を観察し続けることで形態的にはその樹木を知ることが出来ます。これでもうどこのフィールドでどこの季節に出会っても、その木の種名を言い当てる事が出来ます。(ここで筆を折り未完成)

これは98年5月10日に北海道野鳥愛護会の千歳川周辺早朝探鳥会に参加した折、感想文をもとめられ途中まで書いたけれども結局そのまま出さずに終わった私の一文です。

昨年病気をして3ヶ月ほど入院生活を送りその後もなかなか外に出られず家に引きこもった生活をして来ました。しかし2006年こそは是非以前の自然の中でのこういう活動を取り戻そうと思っています。2005年は結局1枚も写真を撮ることも無く、どこにも出かけずに終わってしまいました。

そこで願わくは今年は写真を撮りまくり、以前のような体全体に染み渡る感動を味わってみたいと思っています。皆さんもフィールドで私を見かけることがあれば是非気軽に声をかけてみてください。

写真を通して

旭川市 飯田 恵美子

本校は旭川市の東方に位置し児童数約400名の小学校です。市内の学校としては珍しく校庭には樹木が多く周りは白樺の木が大きく伸びています。

仕事の関係でなかなか自然観察会もできない状況ですが、今年からこの学校に赴任して、写真クラブを創ることにしました。デジカメで簡単に写真を撮ることができ、プリントも可能です。そして何より写真の得意な用務員さんもいました。4年生以上15名の児童と年間12回活動しました。

題材は、身近な植物や風景を撮ることにしました。幸いに校庭にはハマナスやスズラン、ラベンダー、ナナカマド、イチヨウの木等、校庭ですぐに撮影できました。児童の反応は驚きでした。「こんな花、前からあった?」「すごいこんな実がなるんだね。」とかファインダーを通して身近な自然に触れることができたようです。プリントして額に入れ校内に掲示すると他の児童もきれいだねえとまるで校庭の写真とは思わなかったようです。

四季を通して撮影してみました。

今は、近くの郵便局にも掲示してもらっています。保護者も児童と共に一緒に見に行っていました。

写真の素晴らしさを教えてもらったのは同僚の梅原校長でした。昨年病で他界してしまいました。

5月に千代ヶ岡の筆竜胆(フデリンドウ)を撮りにいく約束だったのに残念です。一人で撮りに行ってこようと思っています。



マツの一種 かとうまおこさん



ギンナンとナナカマドの実 大橋りささん

ウォッチングレポート

石狩市 石狩浜 05年 7月 9日

参加者 7名 指導員 4名 晴 道新

<カシワ林と夏の花を見に行こう>

児童会館の子供達中心のグループと、大人だけのグループに指導員が2名ずつついて、石狩三線のカシワ林を浜へと抜ける道路に沿って出発した。内陸に近い所では樹種が多く、海岸へ近づくにつれてカシワー色となるこの海岸保安林の林縁には、クサフジ、エゾリトラノオ、エゾカワラマツバ、メマツヨイグサなどの花が咲き、ガの幼虫やハムシ類が数多く見られた。

一般参加者は、互いに感想を話し合ったり、写真を撮影しながら進み、子供達のグループは、クイズやカードに見つけたものを書き込んだりしながら、海浜まで歩き、ハマニンニクの茂る原で昼食をとった。その後、バスではまなすの丘公園へ移動し、咲き始めたハマボウフウの花が見られる保護区を散策した。

(この観察会は、石狩海浜植物保護センターと共催で行われました。) (林 迪子記)

蘭越町 尻別川 05年10月16日

参加者 名 指導員 名 晴

<川サケの遡上を観察しよう>

公共交通機関がなく都市から遠くはなれた地域での開催だったが、小樽や札幌、千歳などからの参加者も含め、総勢20名での観察会になった。

サケの遡上に加えて、産卵床を必死に作るメス、オス同士の争い、死に瀕するもの、頭を食われ腹から卵がこぼれ出た死骸、腐敗が進み原形をとどめていない死骸、骨だけになった死骸、黒い目玉(胚のこと)が出来つつある卵、死んだ卵などを間近に観察することが出来た。また捕獲場の見学もでき、捕獲の様子や仕組みも理解することができた。

この地域での観察会は初めてだったので、計画・準備の段階でいろいろ不安な面も多かった。しかし多くの参加者の感動の声を聞くことができたので、来年以降も継続して実施し、さらに良い観察会にしていきたいと考えている。

最後に、快く見学を許可していただいた、日本海サケ・マス増殖協会に感謝いたします。

(大表 章二記)

札幌市厚別区 大谷地の森 05年10月23日

参加者34名 指導員 5名 曇 読売、毎日、まんまる新聞

<秋を探そう>

肌寒い曇り空でしたが、サイクリングロードを通り、根岸さんより地形の特徴や歴史などの説明を受けながら、本日の目的地の大谷地の森へ。

この「大谷地の森公園」は、面積約1.8ヘクタールの小規模な公園にもかかわらず、コナラの純

林として学術的にも重要な市街地の緑地で、コナラとミズナラを比較学習し、草木など冬芽を観察して楽しみました。この地での初めての観察会は、たくさんの参加者に恵まれ、指導員の方々の助けを頂いて無事終了しました。

(澤田 久美子記)

札幌市南区 藻岩山山麓 05年10月29日

参加者 7名 指導員 3名 曇 道新

<紅葉と木の実の観察>

朝よりぐずぐずした天気のためか、また新聞掲載が3ヶ所まとまって載ったため、問い合わせが事務局経由となり少なかった。

雨にもあたらず、少人数でのんびり散策できました。

テーマは紅葉の仕組みでしたが、色々なことに観察がいて、紅葉がかすんでしまいました。

(福地 郁子記)

札幌市東区 モエレ沼 05年10月30日

参加者19名 指導員 6名 雨 道新、朝日、読売

<渡り前集結の鳥たち>

「天気がよければ全てよし」を願いましたが、秋雨の日となりました。

カイツブリ、オオバン、カルガモ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、オシドリ、ミコアイサ、カワアイサ、ホシハジロ、スズガモ、ユリカモメ、トビ、チュウヒ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシブトガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、の29種を確認しました。

スコープ持参で鳥に詳しい方が参加されるので、例年ながら話題が豊富な会となりました。

(須田 節記)

苫小牧市 ウツナイ湖 05年10月30日

参加者12名 指導員 6名 晴/雨 道新、朝日、苫小牧民報、

<白鳥(渡り鳥)の観察と森のお散歩> 千歳民報

前日は前線が通過して雨模様でしたが、当日は青空が半分くらい見え、少し寒気が入り込み11で、風もなく、まずまずの状態でした。

参加者は12名でしたので2班に分け、指導員も3名ずつで実施。湖岸のハクチョウ、オナガガモ、ヒドリガモと一羽のヒシクイ(傷ついているのでしょうか)と、湖の遠くのほうに、ハクチョウやガンの群れを観察。

湖岸ではちらほらユウゼンギクの花が見られ、アキグミ、マユミ、ツルウメモドキの実や、最近増えだしたシャグマハギの枯れかけたもの。林ではケヤマウコギ、チョウセンゴミシなどの実。ヒシの実の話、ハナアブを見たあと、セイヨウオオマルハナバチの話など、冬も間近に、観察した動

植物やそれらの話に盛り上がっていました。

終わりにヤマモミジやツタなどの紅葉している林を通っている頃から雨が降り出しました。

(谷口 勇五郎記)

小樽市 長橋なえぼ公園 05年11月 3日

参加者 名 指導員 名 曇

<不思議な昆虫の生活>

下見は雨の中、10月30日に実施。4名参加。

初めて「親子観察会」とうたったが、ハガキで申し込みがあったのは一家族・子供2名のみ。逆に「子供連れでなければダメなのか」などの電話による問い合わせがあった。

冬を迎える準備をする昆虫たちの、興味深い生態を、ぜひ小学生に観察してもらいたいと思うので、来年度も「子供特集」として実施したいが、小学校に案内を出したり、ポスターを貼ってもらったりする工夫が必要であることが、(後志地区の)年間反省・明年度計画立案の会議で話し合われた。(後藤 言行記)

札幌市北区 北大構内 06年 1月 7日

参加者18名 指導員 8名 晴/雪 道新、読売、毎日、ボラナビ
<雪氷観察会>

連休や構内駐車禁止により参加予約の欠席者が多く出ましたが、来年度も冬休み期間を考慮して、1月の第1土曜日に実施することにしました。

自然観察を主体にした積雪観察、深雪を漕がせてのゲームやミニ実験など多彩な内容に、参加者は大喜びでした。雪の消音ということで雪の中の音を聞き取るゲームでは、仲間に入れなかった子も夢中になって遊びました。水の中に入れた南極の氷が解けるときの太古の音も、しっかりと聞き取っていました。

北大低研から3人の方に指導にもご協力いただきました。(須田 節記)

苫小牧市 北大研究林 06年 1月15日

参加者10名 指導員 5名 晴 道新、千歳民報

<冬の野鳥と冬芽の観察>

天気がよく、気温も例年に比べ温かく最高の観察日和。しかし、タイトルの「冬の野鳥と冬芽の観察」に反し野鳥の姿はほとんど見られず若干さみしい感じであった。それでも樹木の冬芽については、キタコブシとホオノキの芽の差を見たり、また、北限を越えて植えられているブナの樹形が、本来の姿とはまったく別の形になっているものなどを観察し、参加者の皆様に興味を持ってもらえたことは一つの収穫だった。

今年は曜日の関係で報道への連絡がうまくできず、告知に失敗し参加者が少なかった。次年度も続けて実施する場合は、告知を考え一週間後ぐらいに計画したほうが良いのではと考えます。

(明野 幸久記)

札幌市豊平区 西岡公園 06年 2月12日

参加者6名 指導員 2名 晴 読売

<冬の水源地トレッキング>

早朝から快晴(平岡で-12)、久々にピリッと凍れた朝です。

日曜日に管理事務所が開いていて暖かく、待つ身としては好都合でした。遠くにスキーマラソン運営のスノーモービルのエンジン音が聞こえる中、スノーシューで湿原に入ってみました。途中、レンジャクの集団に会えましたが、今年は動物の足跡が少なくテンとネズミだけでした。

見てもらうものが少ない中で張り出したミズナラの枝先の側芽に、直径1mm位の白いツブを発見、ジョウザンミドリシジミ?の卵と思いますが、ルーペで観察しました。

気温は-6と寒い中でしたが、湿原横断の開放感にあじわっていただけだと思います。

(佐藤 佑一記)

白老町 秋の里自然公園 06年 2月19日

参加者 4名 指導員 4名 晴

<冬芽と動物の足跡探し>

観察のポイントは「動物の足跡探しと冬芽の観察」でした。

下見のときは見られなかったエゾリスの足跡が、うっすら積もった雪の上にくっきりつけられていました。キタキツネの足跡も4本のツメがはっきり分かるようになっていました。「キタキツネは雪に沈まないように指が雪上で大きく広がるのです。」と説明があり、北国に生きるものの見事な適応力に感心しました。

エゾシカの足跡もたくさんありましたが、エゾタヌキの痕跡はこの辺りどこでも少なくなっているようです。

ミズナラ、ホオノキなどの冬芽を観察しました。ミズキの枝がぐんと赤みを増してきたようです。この里山はミズキが大事に管理され、冬に訪れる人たちの目を楽ませてください。散策路が滑りやすく、坂道では転ばないようお互いに声を掛け合って歩きました。センターハウスでこの日の観察のまとめをして終了しました。

(中野 嘉陽記)

千歳市 支笏湖の森 06年 2月19日

参加者19名 指導員 6名 曇 道新、千歳民報、苫小牧民報

<動物の足跡探しと冬芽>

曇りの天候でしたが、寒くもなくまずまずの観察会日和となりました。カンジキが初めての人が多く心配されましたが、時間とともに慣れて「カンジキって楽しい」の声が聞かれました。

動物の足跡は、降雪がなかったためエゾユキウサギ、エゾリス、テン、ネズミなどの足跡を見ることが出来ました。

動物の実物大の型紙を使い、足跡と同時に観察することでより理解を深めてもらえたと思います。国の特別天然記念物のクマゲラの新しい食痕も見

ることができ、参加者から驚きの声が上がっていました。

冬芽もホオノキ、キタコブシ、オオカメノキなどが花芽をつけて大きく膨らんでいて、春が近いことを感じつつ観察会を終えました。

千歳市環境課の皆さん、ならびに休暇村支笏湖の方には大変お世話になりました。

(宮本 健市記)

札幌市中央区 円山公園 06年 2月19日

参加者13名 指導員 4名 曇 読売

<冬に耐える植物>

厳しい寒さも一段落、曇り空ながら風もなく穏やかな観察会日和となりました。

今年は数日前の暖気の後、再び凍れたおかげで、踏み跡のない雪の上も固くしまって坪足でも歩きました。また多かった積雪のおかげで比較的高い枝先にも手が届き、冬芽の観察も枝を引き寄せて間近に見ることが出来ました。

暖かかったせいか、エゾリスや鳥たちの動きも活発で、思わず立ち止まって見とれる場面も何度かありました。
(山形 誠一記)

参加者の声

札幌市 大谷地の森公園 (05/10/23)

札幌市西区 小林 順花

駅に近い大谷地の自然観察って、どんな所だろう、と思いをめぐらして参加しました。

駅から少し歩いたところに、ゆるやかな勾配があります。そこは、嘗て火山が爆発し溶岩が流れて止まった所だそうです。溶岩の下は水が流れ出て沼地となり、谷地が育ち“大谷地”の地名になったそうです。そこから平地を10分程歩くと原生林の入口です、コナラを中心にいるな木が30m程の高さまでのびて、中に入るとさまざまな鳥のさえずりも聞こえます。

森の中には川も流れていて、ザリガニもいるそうです。都会の側で、こんなオアシスがあるなんて、なんて素的なことでしょう。この地を残された方達、そして今日ここを案内して下さった指導員の方々に感謝です。

私もこの感動を一人でも多くの人に伝えられたらと思います。

札幌市 西岡公園 (06/2/12)

札幌市中央区 森 重雄

いつもながら、佐藤佑一様の手作りの資料をお配りいただき、感謝しております。動物ごとの走る速さ、小まわり、あし跡、主な行動などの整理にはとても感心いたしました。この整理がお話を聞いていていつも楽しく、分かりやすく、刺激されるのだと思いました。

“もし、きのこがいなければ、森は枯れ木、枯れ葉の山になり、我々は今回のようには景色も楽しめなくなる”と何気なく話されたことに、自然界の共生、リサイクルなどムダのない営みを考えさせられました。

今回の私にとっての最大の発見(確認)は、白く、丸い1mmほどのシジミチョウの越冬卵を観たことです。拡大鏡でみた縦縞が非常に綺麗で感激でした。これもスタッフに教わらなければ、発見できない1mmの現象です。

いろいろありがとうございました。

会計からのお願い

会費の納入はお早めに

会費は年度単位です。4月から新年度になります。振込用紙を同封します。

2006年度の会費を既に入金済みの方には同封しておりません

- ・ 4月3日から窓口通常払い込み料金70円が100円にあがります。
- ・ ATMを利用手数料60円は変わりません。同封の振込用紙をご利用下さい。
- ・ 通信欄は住所変更等の近況報告にお使い下さい。
- ・ 差し支えなければメールアドレスを記入願います。

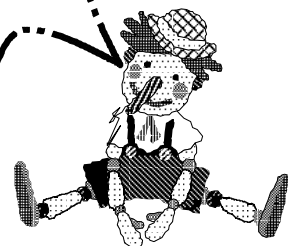
退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届が出されるまで会費のお支払いをしていただきます。

郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 中村真由美

会計 引地輝代子



【理事会だより】

理事会議事録から抜粋

第4回理事会 '06/01/24 環境サポートセンター

- ◇ 各部から2005年度事業報告と2006年度事業案を検討。
 - ・ 各部の2005年度事業は既発行の会報で報告済み。
 - ・ 編集部 会報78号(3月15日発行)、3月10日発送、原稿締切り2月24日。
 - ・ 研修部 '06年6月25日(日)石狩浜海浜植物保護センターにて、日本自然保護協会主催による「海浜植物群落調査研修」実施。地方研修は、錦大沼総合公園で「キノコという生き物をもっと知ろう」。フォローアップ研修会は恵庭青少年研修センターで11月実施予定。
 - ・ 「第17回滝野の集い」は実行委員会を組織して実施予定。
- ◇ 2006年度総会及び講演会は4月15日(土)環境プラザ研修室1・2で開催。講演会講師は工藤岳北大助教授 懇親会会場は「笑笑」
- ◇ 理事選考委員会委員6名を(会員3名、理事3名)選出。選考委員長は選考委員互選。
- ◇ 理事任期(2年)終了に伴い、理事全員に葉書で通知する。
- ◇ 2001年度第9回理事会(2002.2.23)で理事改選に関する内規が決議されている。
 - 会長の任期は2期(4年)とする。会長は副会長から選出する。各部の部長は理事が担う。
- ◇ 北海道自然観察協議会会則改正案 第1条 事務所を北海道保護協会内におく <改正案>事務所を事務局長宅におく。
- ◇ 2006年指導員講習会は日本自然保護協会・北海道自然保護協会・北海道自然観察協議会共催で
 - 10月27日(金)~29日(日)に開催される。会場は恵庭市青少年研修センター。
- ◇ 環境道民会議「WARM BIZ 宣言」に賛同する。

第5回理事会 '06/02/24 環境サポートセンター

- ◇ 2006年総会次第と講演会概要について 講演会演題「森林性植物の季節性と繁殖特性」講師：工藤岳北大助教授
- ◇ 2006年度各部事業案(観察部・滝野の集い・研修部・編集部・事務局)会報78号に掲載。意見をお寄せください。
- ◇ 2005年度会計中間決算報告と2006年度会計予算案について(剰余金があるので保護協会3万円助成金申請辞退)
- ◇ 観察協議会ホームページ立ち上げのために、今後、理事会で慎重に検討していく。
- ◇ 自然保護協会ホームページ内の間違われやすい「協議会の観察会予定案内」について
- ◇ 自然観察協議会が自立出来るようになってきている現状からは会は依頼することを止めて自覚をもって事業にあたる。
- ◇ 観察会案内要請の選択範囲については非営利事業への支援を前提とし、急ぎの場合は3役で総合的な判断をする。
- ◇ 新旧理事による拡大理事会4月15日(土)午前11時 環境プラザ研修室にて開催する。(主に総会議案について)



2005年度 観察会('06年3月)

下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
2006年 3月26日(日)	ヒシクイを送る 北川筋のヒシクイ観察とゴ ミ拾い	千歳市 根志越排水路周辺 (旧長都沼)	JR千歳駅前 9:00集合~13:00解 散 千歳市環境課共催、定員25名、はがきで申し込み応募者多数のときは抽選	JR千歳駅前より無料バス運行	当日早朝~ カウント調査 実施予定	明野 幸久 01238-4-2460
申し込み要領 〒、住所、氏名、年齢を書いてはがきで申し込み。3月22日締め切り。〒066-6868 千歳市役所環境課自然環境係宛 0123-24-3131						
2006年 3月26日(日)	雲を作ろう ゲームをしながらアイスク リームを作って科学も知ろ う 木の温度や音調べもしよ う(親子、子供特集)	札幌市南区 真駒内公園	真駒内公園 屋外競技場駐車場 時計塔前 10:00集合~12:00解散 防寒服、雪の入らない靴 はがきで申し込み 小3以下は保護者同伴	地下鉄南北線 真駒内駅から 定鉄バス「南90」、「南95~98」乗車 「真駒内競技場前」下車		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、TEL、年齢を書いて葉書(家族連記)で申込3月22日必着。〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1-13 須田節宛 -FAX011-752-7217						
2006年 3月26日(日)	春と野鳥をさがそう	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合~12:00解散 あれば双眼 鏡、ルーペ、図鑑	最寄の公共交通機関はありません (自家用車のみ)	3/25(土) 9:00	佐々木 昌治 0144-67-2022

協議会行事他

年月日	テーマ	集合場所・時刻	交通機関・内容	連絡先
4月16日(日)	2006年度総会 講演会	札幌市北区北8条西3丁目 札幌市エルプラザ2階 12:30 総会、14:30 講演会	札幌駅北口12番出口から地下歩道で直結 徒歩3分 総会：事業報告・事業計画 講演会：「森林生殖物の季節性と繁殖特性」	須田 節 011-752-7217
4月16日(日)	懇親会	札幌市北区北7条西4-1-2 丸増ビル 地下1階 笑笑 18:30~20:30	札幌駅北口 徒歩3分 会費 女 2700円、男 3000円 8ページをご覧ください。	須田 節 011-752-7217

【事務局だより】



【北海道自然保護協会と北海道自然観察協議会の関わり】

「北海道自然観察協議会」は「日本自然保護協会」に登録した指導員の集まりの団体です。当会や当会の事業(観察会)が「北海道自然保護協会」の事業の中に組み入れられる団体ではありません。

観察協議会が独立した団体であり、独自の観察会を開催していることを周知してもらうとともに私たちが改めて自覚するためには他の団体に依存しない形が必要と思います。

「北海道自然観察協議会」と「北海道自然保護協会」との関係は、一線を画しながらも自然保護思想啓蒙のための、よりよいパートナーであり、自然観察協議会が幅広い層へ自然への興味を持ってもらう、この形態が人々の自然への関心の底辺を広げて北海道の自然保護に結びついていくことになると思われます。

ご逝去 : '06年1月6日 苫小牧市 内藤吉徳さん

【救急救命講習会報告】

AEDを用いた心肺蘇生法の基本実技と観察会実施中の救急処置を習得しました。

早い119番通報

早い応急処置(救急車到着前の早い心肺蘇生と早い除細動)

救急救命士の早い救急処置

医療処置

2006年1月29日 かでの2・7 320会議室 9:00~15:00 受講者12名
講師:札幌市消防局中央消防署、日本赤十字北海道支部

救急救命講習会収支

年月日	項目	収入	支出	差引残高
2005.7.1	かでの2・7会場費		4,450	
2006.1.28	三角巾送料		250	
2006.1.30	指導員派遣経費		3,000	
2006.2.24	協議会会計より	7,700		
	合計	7,700	7,700	0

会員対象の救急救命講習会予定の地域については、予算の相談に応じます。事務局へご一報ください。

~~~~~

会費や寄付は -----> 郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会  
-----> 会 計 中村 真由美 〒064-0944 札幌市中央区  
/Fax 011-614-8365

観察会保険料は -----> 郵便振替口座 2770-9-34461 北海道自然観察協議会観察保険料  
-----> 観察会担当会計 引地 輝代子 〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25  
/Fax 011-773-2170


観察会報告書・資料は -----> 観 察 部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14  
011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

研修会関係は -----> 研 修 部 後藤 言行 〒047-0034 小樽市緑3丁目2-12  
0134-29-3338 E-mail gotoh-genkoh@blue.ocn.ne.jp

退会、住所変更の連絡他は -----> 事 務 局 須田 節 〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13  
事故発生等緊急時は /Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com

投稿や原稿は -----> 編 集 部 竹林 正昭 〒099-2103 常呂郡端野町字3区378-3  
/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙スケッチ 八木健三



自然観察:2006年 3月 15日 / 第78号 年4回発行  
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)

発行 **北海道自然観察協議会**  
編集 北海道自然観察協議会編集部